



## 星降る中部高地の縄文世界

数千年を遡る黒曜石鉱山と縄文人に出会う旅



中部高地では、太古から変わらぬ雄大な景観の中、縄文人が黒曜石を運んだ道をたどれば、山麓の縄文ムラの跡を訪れ、命の躍動を表現した母なるヴィーナスや造形に優れた原始芸術に出会うことができる。胸の奥底にしまい忘れた遠い記憶、自然とともにあった日本文化の源流にタイムスリップしてみよう。



### ● 黒く輝く石の魅力

日本列島のものづくり文化は石器づくりにそのルーツがある。石器の材料の黒曜石は信州産が良質で日本最古のブランドとして人気が高かった。深い森の頂上には、縄文人が掘り続けた黒曜石鉱山がある。たくさん散らばっているキラキラ光る黒曜石は、大地に降り積もった星のかけらと信じられていた。

### ● 黒曜石縄文鉱山から全国へ

掘り出された輝く黒曜石は、山麓のムラからムラへと持ち運ばれ、ムラを結ぶ道は「黒曜石の道」となった。八ヶ岳山麓の大きなムラには黒曜石が集められ、そこから良質な信州産黒曜石の東西文化の交流ネットワークが結ばれたのである。

### ● 恵み多き八ヶ岳山麓の縄文ムラへ

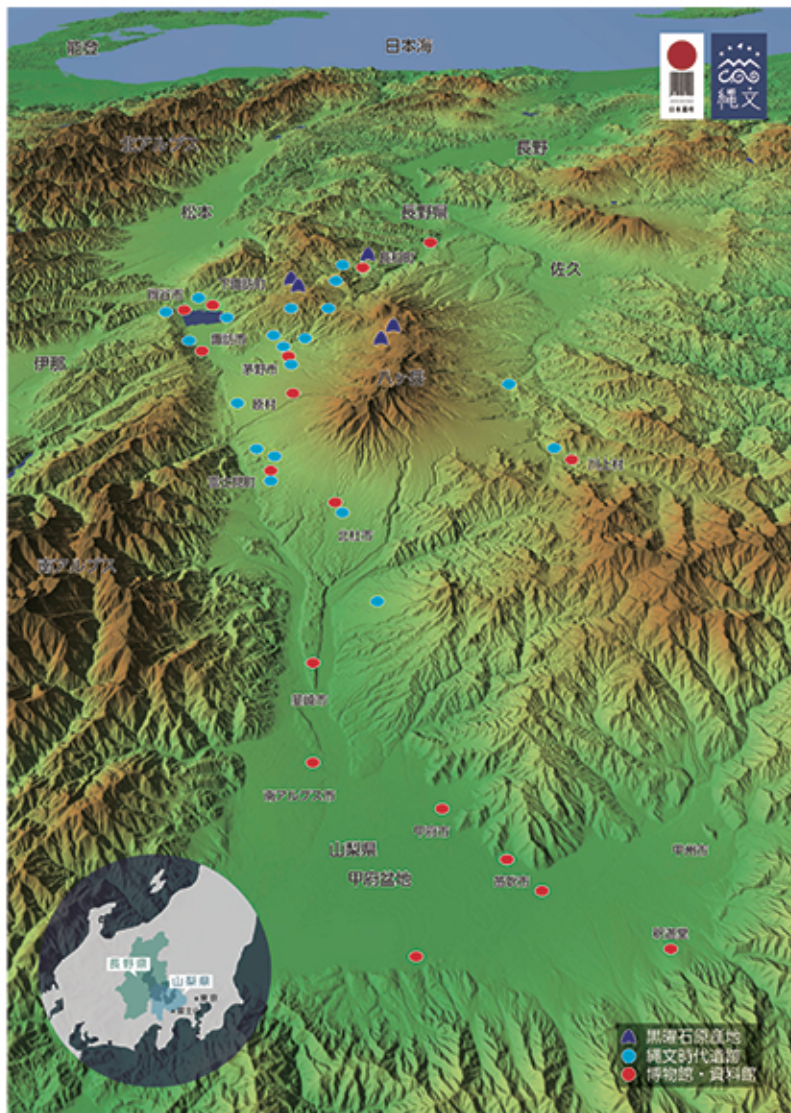
今からおよそ5,000年前、日本で有数のムラ数を誇るに至った縄文時代中期の山麓文化は、今に残る豊かな自然環境を活かす術によって開花する。縄文鉱山から落葉広葉樹の深い森を通り、やがて麓にひろげる縄文時代のムラには、竪穴住居が立ち並び、家族が集い、遠方からの旅人を迎えた。

### ● 森に集う縄文人に会いに行こう

「森の芸術家」縄文人が残した作品には、土器に映し出された家族の顔や様々な表情を持つ土偶があり、数千年の時空を超えて今を見つめている。土器に水の流れ、そしてその世界に生きていた人や動物の姿を立体的に描く、国内外でも類例のない縄文芸術が発達した。ここでは個性的な表情のヴィーナスたちに出会うことができる。

### ● 縄文人の心に触れる

黒曜石鉱山を開発し、交易ルートを拓き、クリ林を育てるなどの技術を手にした縄文人はカミに「祈る」ことが重要だった。子どもの誕生と健やかな成長への願いは、土偶への祈りに託された。マツリの姿は、自然の営みとともに生きる狩猟採集民であった縄文人の純粋な心を伝えている。



## 恵み多き八ヶ岳山麓の縄文ムラへ



ムラの暮らしで、器の中を覗き込むように母の顔をつけた土器は、中身が煮えるのを楽しみに見守っていたのだろうか。家族が囲む土器鍋には、母から生まれようとする子どもの顔や歌を歌い踊るようなヒトの姿も描かれている。

県指定有形文化財 津金御所前遺跡出土 土器文土器 (山梨県立社史)  
背景の写真: 国史跡 梅之木遺跡 (山梨県立社史)